

オホーツク『木』のプラザ

“オホーツク，森あり夢あり未来あり”

社団法人オホーツク森林産業振興協会
理事長 寺前一雄



◆オホーツク「木」のプラザ設置の目的

私たちが住んでいるオホーツク地方（網走支庁管内）は、3市20町3村で構成されており、その森林は豊富な資源量を誇り、明治の時代から木材産業は地域の経済を支える大黒柱の存在でした。素材生産業から始まって、木材加工業までそこに暮らす人々は何らかの形で「木」に携わって生活し、幅広く発展してきた木材産業は地域の振興に大きく貢献してきたと言えます。

オホーツク地方の中で北見市を中心とした周辺地域は中央オホーツク圏（北見市，美幌町，津別町，端野町，訓子府町，置戸町，留辺蘂町，佐呂間町，の1市7町で構成）と呼ばれており管内でも特に昔から林業・林産業が盛んな土地で、家具・建具をはじめここ数年から木工クラフトの生産も盛んになり、全国各地で行なわれております「物産展」や「見本市」などでも好評を得ております。

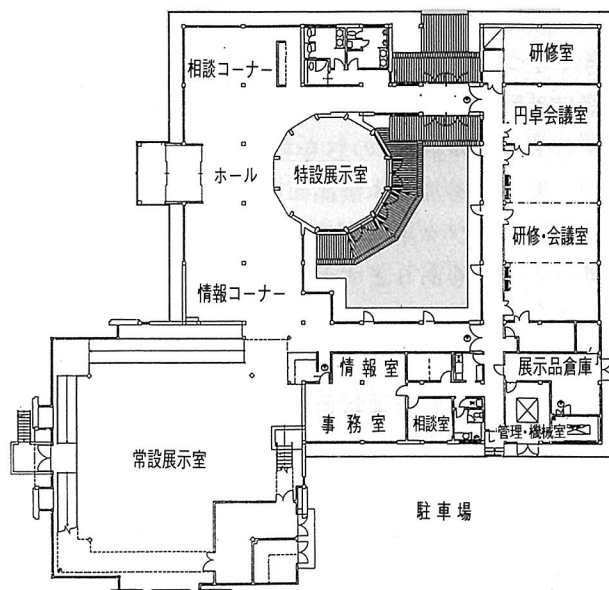
また、これらを展示販売している木工芸館や、憩いの場となっている森林公園なども各地に数多く設置されるなど、森や木を活かした街づくりや地域興しへの取り組みが活発な地域です。このような中で、北海道新長期総合計画の戦略プロジェクトの1つとして「オホーツク，森あり夢あり未来あり」をキャッチフレーズに臨森林型産業都市構想が掲げられ、そのモデル地域第1号に中央オホーツク圏が指定されました（平成元年12月）。そしてその臨森林型産業都市構想を遂行するための広域中核施設としてこれからご紹介します。「オホーツク「木」のプラザ」がJR北見駅の南側に5月25日にオープンいたしました。

◆建物の特徴

この施設の建築工法の大きな特徴としては、柱や梁の部分に大断面集成材を使用した「立体トラス梁架構（外壁の大きな三角形に組み込まれたトラス柱により、風や地震などの水平力に強い構造）」を採用しており、その集成材は北海道産のカラマツ材でできているということです。



また、集成材を厚さ450mmの燃えしろ部分でぐるりと覆い（燃えしろ設計）もし万が一火災が起きた時でも大きな被害になりにくいという工夫を施しています。（1時間準耐火構造）このような大規模木造建築物は大変珍しく、道内はもとより全国各地から（遠くは大分県）林業・林産業・建築関係諸団体が多数視察に訪れてお



り、その注目度の高さを再認識して実施した2度の見学会も合わせると、訪れた人々は600人にも上ります。見学者はそれぞれの立場から複雑に入り組んだ梁の様子や材そのものに関心を寄せながら、「とても手間の掛かる」高度な木造建築技術を熱心に見入っていました。

内部は、「木」が前面に出されており、1階部分はロビー、販売コーナーを含めた特設展示室、円卓会議室（定員20名）、研修和室（定員20名）、研修室（定員120名）、情報コーナー、事務室があり、一部2階建部分は吹き抜けて“木のある暮らし”をテーマにした常設展示室となっております。

◆運営の仕組み

施設を運営するのは社団法人オホーツク森林産業振興協会で、オホーツク「木」のプラザの建設に先立ち平成6年6月に設立されました。

会員は1市7町21団体が構成されており、「川上（生産現場）から川下（製品現場）まで」のトータルな視点に立って木材産業の活性化、木製品の技術振興及び需要拡大、FAX同報システムを使った情報収集・情報発信など森や木を活用した街づくりや生活・文化の創造を推進しており、そのための先導的な役割を果たし、地域と共に歩んでいくことを目的としています。具体的には、林業・林産業に関する国内外の情報の収集・発信、オホーツク木のプラザニュースの定期発行（企画情報事業）、北見工業技術センターと連携しながらの研修会やセミナーなどの開催（技術振興事業）、生活提案型の展示PRや木工教室などの開催（需要開発事業）、オホーツク「木」のフェスティバルなどのイベント開催及び商品展示会や見本市の開催（販売促進事業）と、大きく4つの事業に基づいて運営しております。

既に「臨森林活性化フォーラム」「オホーツク木のフェスティバル」「木のおもちゃ展」の開催、各地での物産展への参加、木製品に関するアンケート調査の実施、オホーツク木のプラザニュースの発行など実施している事業もありますが、これらを単発に終らせることなく定期的に継続して行くことに意味があり、そうして進みながらいろいろな方々のご意見やご要望を伺って更に充実した運営となるように努力して参りたいと考えております。

毎年5月に開催されております『オホーツク「木」のフェスティバル』は、いまからちょうど10年前、北見市開基90周年・市制施行45周年にあたる昭和61年に、

「木」に愛着を持って携わっている人が「ここで一丁やってやろう！」と一致団結して「木」の心地好さ、素晴らしさ、利用性を広く一般の方々にも知っていただきたいという願いから、深緑眩い風薫る5月に爽やかに開催されました。

記念すべき第1回は、北見工業技術センターほかを会場に、合板・製材・家具・クラフトの展示販売、工作コーナー、木の遊具展、研究機関の展示、特産品まつりなどのほか、ログハウス製作実演会や体力勝負のウッドトライアスロン、講演会や懇談会などなど3日間にわたって盛り沢山の内容で行なわれ、大成功のうち無事終了することができました。

今年で第11回を数える今も、内容的には少なからず変わっているにせよ、「木の持つ温もり、やさしさ、素晴らしさを一人でも多くの人に感じてほしい」という実行委員会の思いは少しも変わっていないと思えます。そのことは、第1回を記念して植樹されフェスティバルと共に成長を続けている“イチイの木”がよくわかっているでしょう。

◆おわりに

このように永年の間「木」に携わってきた関係者のたゆまない努力の結果、網走管内は北海道内における「木材王国」と言われる程までに発展してきましたが、残念ながら近年は円高による安価な輸入材の増加、資源の減少、従業員の高齢化など木材産業を取り巻く環境は昔とはがらりと変わってしまい国・道有林も含めて非常に厳しくなっており、開拓の時代（先祖代々）からの山、組織を守ることで精一杯という状況が続いています。

そんな中だからこそ新製品の開発やコストダウンなど、企業の存続を賭けて取り組みたい（取り組んでいく）ところも数多くあると思えます。

オホーツク「木」のプラザはこうした皆様の努力の手助けをして行く施設です。公共の施設はとかく敬遠されがちで利用されにくい面がありますが、どうかそういう思いは振り払っていただいて、気軽に立ち寄って、研修会や展示会、会議などに大いに利用していただきたいと思えます。皆様の声に耳を傾けながら少しずつ実績を積んで、総工費6億円の建物につりあうように運営の充実を図って参りたいと考えております。今後とも末永くご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。